

令和2年度

「県・市町村青少年

相談担当者研修会

・東毛地区」

アンケート結果

(概要版)

群馬県子ども・若者支援協議会

令和2年度 県・市町村青少年相談担当職員研修会・東毛地区 アンケート結果

日時 令和2年7月30日(木)

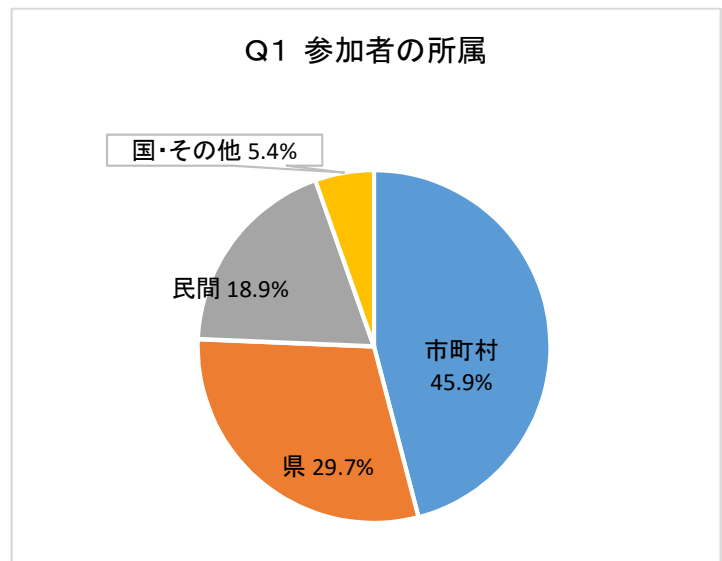
13:00~16:05

会場 宝泉行政センター

○研修参加者 79 人
 ○回答者 74 人
 ○回答率 93.7 %

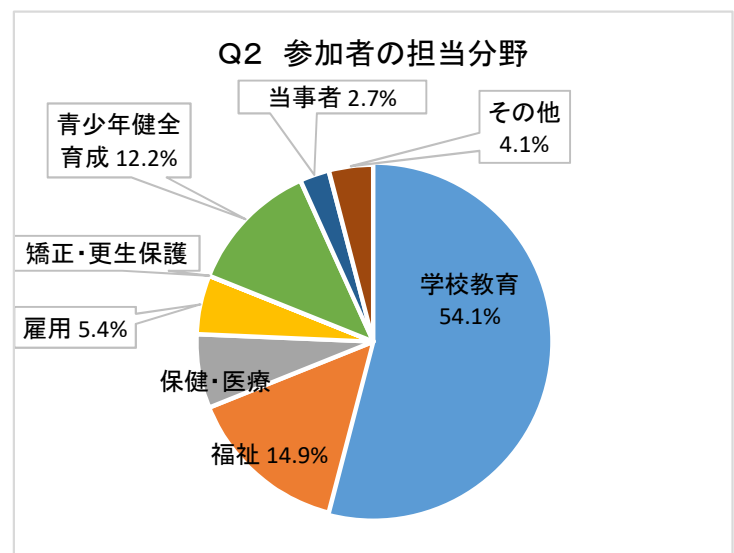
Q1 回答者の所属

	人数	割合
市町村	34	45.9%
県	22	29.7%
民間	14	18.9%
国・その他	4	5.4%
合計	74	



Q2 回答者の担当分野

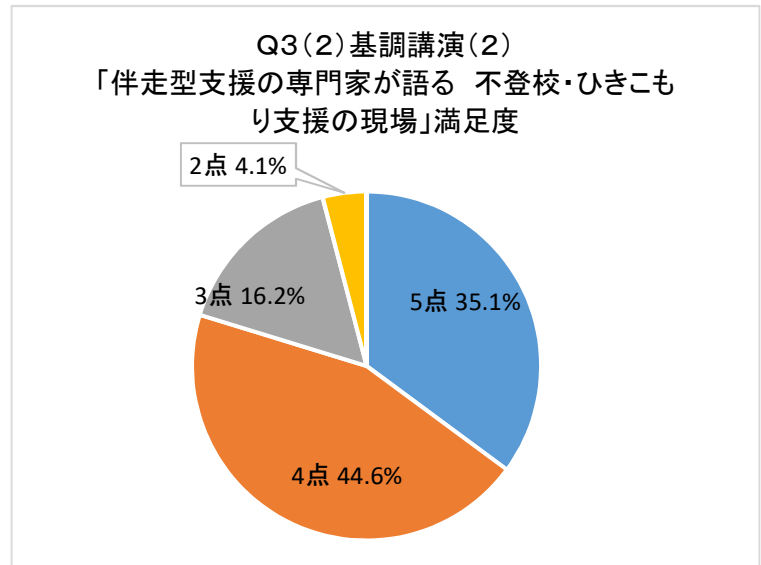
	人数	割合
学校教育	40	54.1%
福祉	11	14.9%
保健・医療	5	6.8%
雇用	4	5.4%
矯正・更生保護	0	0.0%
青少年健全育成	9	12.2%
当事者	2	2.7%
その他	3	4.1%
合計	74	



Q3(2) 基調講演(2)「伴走型支援の専門家が語る 不登校・ひきこもり支援の現場」

講師 NPO法人カウンセリング&コミュニケーション・ミュー 代表 山本泉 氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	26	35.1%
	4点	33	44.6%
	3点	12	16.2%
	2点	3	4.1%
	1点	0	0.0%
合計		74	



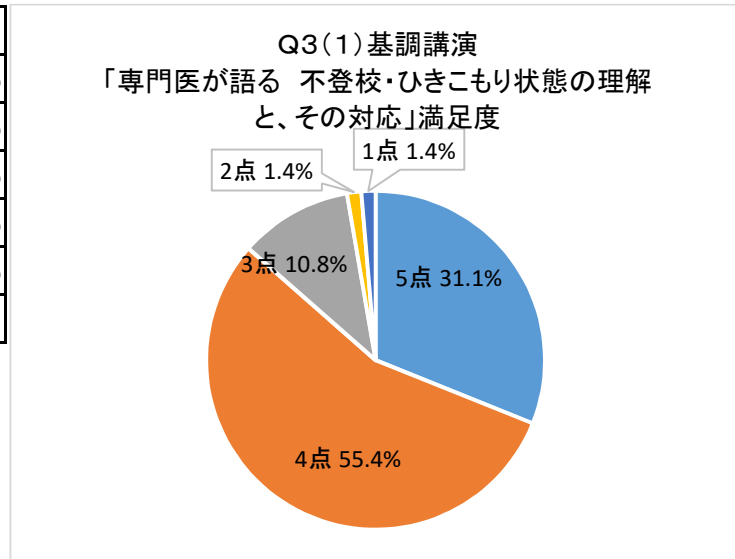
○意見・感想等

1	長年に渡る寄り添う支援の活動をされているので、沢山のケースを知っておりそれをまとめる形で今回は講演して下さったと思う。出来れば傾聴すること、受容すること(同情ではなく)共感することなど、支援者としての姿勢をまとめたり、よくあるケースを2~3例あげ、家族のあり方、周囲のあり方、CCMのあり方など、解説していただくとわかりやすいのではないかと思います。
2	もっと時間をゆっくりと聞いてみたいと思いました。「寄り添う」ことの本当の意味は実感としてわかるレベルまでしなければ本当に寄り添ったことにならないと思いました。子どもの声にしっかりと耳を傾けて自分の心で子どもの気持ちを理解しようと思いました。
3	普段、就労支援を行っていますが、その中で気をつけている事、心がけていることがひきこもり支援でも生かせることを改めて感じました。基本は一緒ですね。「ひきこもり」と難しく考えず、当事者に寄り添いながら、お話をお聴きしようと思いました。
4	共感的な理解ができたかどうかは、支援者ではなくクライアントが決めるということ。
5	考えてきたことを二人の先生方の話で改めて整理できました。特に山本先生のお話が端的に支援者として大切なことを伝えてくださる内容で良かったです。
6	保護者の立場、気持ちをすごく理解して下さったと感じました
7	支援をしてあげるという視点は誰にでもあるかもしれませんが、上から目線の考え方をまず変える必要性を強く感じました。
8	つながるはずと思っているからつらいという言葉が心に残ります。支援をしているんだということに、どこかおごるような気持ちがあったのかもしれません。
9	山本泉先生の活動の概要をわかりやすく伝えていただきありがたかったです。もっと具体的な事例、支援する心構えなど、たくさん聞きたいことがありました。
10	寄り添い支援で時間の共有が大切だとの実感
11	「クライアントは監督者」詳しく教えていただきたい。
12	「支援」について、どうしても助けてあげる人、救援隊のようなイメージがありました。先生の話聴いて、支援者は支援を求めている人から大いに教えてもらい、互いに人として理解し合う事と教えられました。基本的に学びの場を広げて欲しいです。
13	退学した高校生、生の声を聞けるとともに、どのように寄り添おうと努力しているかに感激しました。具体的な話をもっと聞きたくなりました。

Q3(1) 基調講演(1)「専門医が語る 不登校・ひきこもり状態の理解と、その対応」

講師 みどりクリニック院長 医学博士 鈴木基司 氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	23	31.1%
	4点	41	55.4%
	3点	8	10.8%
	2点	1	1.4%
	1点	1	1.4%
合計		74	



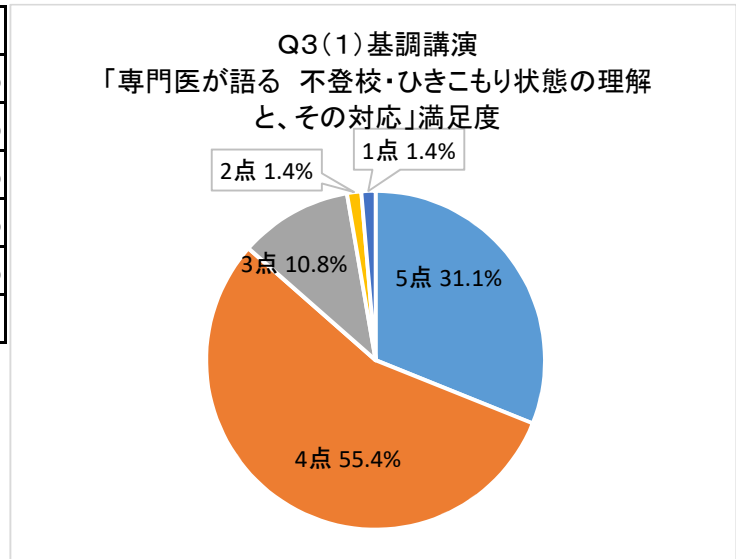
○意見・感想等

1	子育てでは不安と適応という言葉が印象に残る。ストレスを言語化することはハードルが高い子どもも多いと思う。言葉では表せない分、雰囲気や表情、行動からいかに読み取り、またかかる時間に耐えることが必要であると感じた。
2	ひきこもりの方の症状が生理的反応として改めて認識できました。
3	中学校勤務の養護教諭です。自分にできる支援のあり方を探るうえでありがたいお話が聞けました。
4	ひきこもり当事者の状況、心の声がよく理解できました。欲を言えばもっと長い時間お話をじっくりお聞きしたかったです。「特別なこと」ではなく、誰にでも起こりうる。人間の普通の反応の結果なのだと思います。「言語化することの大切さ」「親は二役しない」特に心に染みしました。
5	受け取る人と促す人の役割分担の話が参考になりました。
6	医学的な捉え方がよくわかりました。
7	医療の視点から子どもたちの身体の状態がよくわかりました。
8	「理解とその対応」の「対応」をたくさん示して頂きたかった。不登校に関わる人の具体的な関わり方を教えて欲しい。医療的に症状に対する投薬対応について教えて欲しい。薬で改善できること。
9	言語化してくれるまでに信頼関係を作っていかなければならないですね。焦らずに時間をかけてと思いますが、学校ではなかなか難しいです。3年間が短く感じます。
10	話を聞きながら対応している子どもの顔が浮かび、その心と身体の状態の理解が深まった。
11	医療の視点からの話で興味深く聞かせていただきました。今まで自分の感覚や思っていたこと以外の内容を知ることができ、新たな視点で物事を見られる感じがしました。
12	当事者はいろいろな不安を持っている。それをわかってくれるか。本人が自由に親に言える。それを聞いてもらえる親子の関係を作れるか。
13	専門医の先生にお話を聞く機会があまりなかったのも勉強になりました。
14	いつも時間切れになってしまうことが多いので、診察の現場の話をもっと聞きたい。医療の見立てはとも参考になります。
15	「一人二役は不信を買う」という言葉は響いた。説明の中で身の回りの生徒の顔が浮かんだ。
16	子どもたちが社会に対する適応力を伸ばすための支援や役割を再認識できました。そして子どもたちが自らの言葉で自分の気持ちを表現する力をどう身に付けさせるか今後も研修を深めていきたいと思えます。ありがとうございました。
17	とてもわかりやすかったです。抱えた不安に対処する力(人に伝える力)を身に付けることの大切さ、本人に起こっていることは何かを探っていくことなど、ためになる話が沢山ありました。言語化できない難しい状況もわかりました。
18	医学的理解者がいることに安心しました。彼らが訴えていることにもって耳を傾けたいです。
19	不安、ストレスが学校に行けない行動となるシステムがわかった。言語化できないことが発達障害なのか、考えさせられた。

Q3(1) 基調講演(1)「専門医が語る 不登校・ひきこもり状態の理解と、その対応」

講師 みどりクリニック院長 医学博士 鈴木基司 氏

満足度		人数	割合
↑ 高 ↓ 低	5点	23	31.1%
	4点	41	55.4%
	3点	8	10.8%
	2点	1	1.4%
	1点	1	1.4%
合計		74	



○意見・感想等

1	子育てでは不安と適応という言葉が印象に残る。ストレスを言語化することはハードルが高い子どもも多いと思う。言葉では表せない分、雰囲気や表情、行動からいかに読み取り、またかかる時間に耐えることが必要であると感じた。
2	ひきこもりの方の症状が生理的反応として改めて認識できました。
3	中学校勤務の養護教諭です。自分にできる支援のあり方を探るうえでありがたいお話が聞けました。
4	ひきこもり当事者の状況、心の声がよく理解できました。欲を言えばもっと長い時間お話をじっくりお聞きしたかったです。「特別なこと」ではなく、誰にでも起こりうる。人間の普通の反応の結果なのだと思います。「言語化することの大切さ」「親は二役しない」特に心に染みしました。
5	受け取る人と促す人の役割分担の話が参考になりました。
6	医学的な捉え方がよくわかりました。
7	医療の視点から子どもたちの身体の状態がよくわかりました。
8	「理解とその対応」の「対応」をたくさん示して頂きたかった。不登校に関わる人の具体的な関わり方を教えて欲しい。医療的に症状に対する投薬対応について教えて欲しい。薬で改善できること。
9	言語化してくれるまでに信頼関係を作っていかなければならないですね。焦らずに時間をかけてと思いますが、学校ではなかなか難しいです。3年間が短く感じます。
10	話を聞きながら対応している子どもの顔が浮かび、その心と身体の状態の理解が深まった。
11	医療の視点からの話で興味深く聞かせていただきました。今まで自分の感覚や思っていたこと以外の内容を知ることができ、新たな視点で物事を見られる感じがしました。
12	当事者はいろいろな不安を持っている。それをわかってくれるか。本人が自由に親に言える。それを聞いてもらえる親子の関係を作れるか。
13	専門医の先生にお話を聞く機会があまりなかったのもとても勉強になりました。
14	いつも時間切れになってしまうことが多いので、診察の現場の話をもっと聞きたい。医療の見立てはとても参考になります。
15	「一人二役は不信を買う」という言葉は響いた。説明の中で身の回りの生徒の顔が浮かんだ。
16	子どもたちが社会に対する適応力を伸ばすための支援や役割を再認識できました。そして子どもたちが自らの言葉で自分の気持ちを表現する力をどう身に付けさせるか今後も研修を深めていきたいと思えます。ありがとうございました。
17	とてもわかりやすかったです。抱えた不安に対処する力(人に伝える力)を身に付けることの大切さ、本人に起こっていることは何かを探っていくことなど、ためになる話が沢山ありました。言語化できない難しい状況もわかりました。
18	医学的理解者がいることに安心しました。彼らが訴えていることにもって耳を傾けたいです。
19	不安、ストレスが学校に行けない行動となるシステムがわかった。言語化できないことが発達障害なのか、考えさせられた。

Q3(3) パネルディスカッション

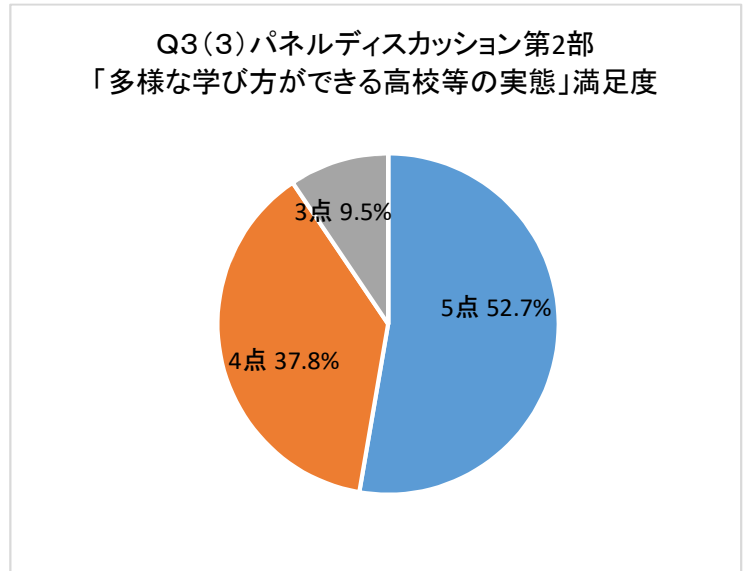
コーディネーター NPO法人リンケージ理事長 石川京子 氏

パネリスト 太田市立太田中学校 養護教諭 阿部恵美子氏

みどりクリニック院長 鈴木基司 氏

NPO法人CCM代表 山本泉 氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	39	52.7%
	4点	28	37.8%
	3点	7	9.5%
	2点	0	0.0%
	1点	0	0.0%
合計		74	



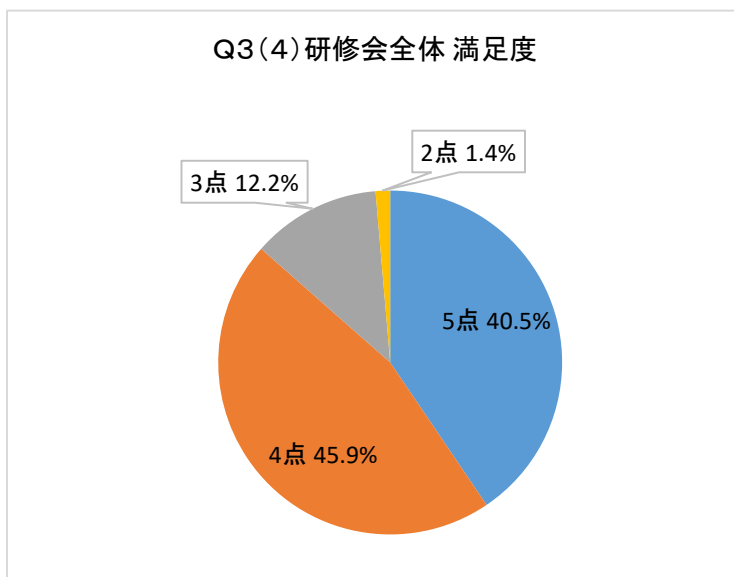
○意見・感想等

1	「(できないけれど)みんなと同じじゃなきゃ嫌」と言う子どもたちの言葉にヒントがあるように思いました。学教教育(幼稚園を含む)でそのような価値観を子どもたちに知らず知らずのうちに植え付けている。一人一人、価値観が異なり、みんな違ってみんな良いの精神をしっかりと伝えていけば、苦しむ子ども自体が少なくなるのではないかと思います。
2	阿部先生が挙げた具体例について、鈴木先生、山本先生が分かりやすく解説しながら、どうアプローチしていったらよいかのヒントが見えた。
3	現場の声(よくある)にそった話し合いとなり参考になりました。
4	こうすれば成功するというのではないので、同じ学校職員、養護教諭として日々の悩みを聞くことができました。お二人のアドバイスもその通りと思いつつも難しさを痛感しています。少しでも悩める子が少なくなることを祈って、願っています。
5	長期ひきこもりにならないように、この人なら何でも話せると感じられる安心、安全の場をつくること、当事者と時間の共有を大切にすることなどを改めて感じました。大人のひきこもり支援も、家族、ご両親との関わりがとても大切ですが、その家族の方々と支援者が関わることがとても難しいと感じています。
6	実際の子どもたちのつぶやきを聞くことができとても参考になります。鈴木先生の一对一の関係を作っていくことで、いい方向に向かうという話もとても参考になりました。自分の勝手な思い込みを捨てることを教えてもらい良かったです。お母さんが直面していること、お母さんの気持ちに寄り添うことも大切です。
7	学校現場においてとても参考になりました。保護者の関わり的重要性を感じました。
8	学校現場、医療、支援者、それぞれの立場でのお考えを聞いたのはとても良かったです。石川先生のコーディネートが見事でした。まとめのお話、ぐっときました。
9	一番最後のコロナ禍での不登校支援について深く掘り下げて欲しかった。
10	阿部先生の子どもから聞く言葉は私も同じです。別室登校の子と一緒にいて、子ども本人よりも親にどのように話したらいいか悩んでいます。
11	現場の先生が感じている内容をもとにさまざまな立場からの意見を聞いて参考になりました。

12	不登校の気持ちを理解している人が周りにいることを本人が知れるかどうかにかかっている。支援は相手(当事者)を変えるのではなく、相手に寄り添い、本人が安心して次のステップを歩めることが大事。
13	学校現場のまっすぐの意見や問題が聞けて良かったです。
14	具体的な質問に対する答えの中にたくさんのヒントを見つけられたと思います。繰り返し繰り返し忘れないようにしたいと思いました。
15	初めて経験するスタイルでした。とても身近に感じ集中することができました。
16	実際の体験を元に助言、ディスカッションがあり参考になりました。子どもの学校の養護の先生でした。子どもを通し、学校の先生に対する心を閉ざした部分、私自身(学校との距離を作った部分)がありましたが、阿部先生のような先生がいる学校で良かったと感じました。
17	具体的事例の解決方法は参考になりました。学校以外の支援体制、仕組みをつくる必要があると思いました。
18	中学校養護の先生が出された事例に対して二人が思っていることを話されたこと、難しい課題はあると思うが前向きになろうという気になって、山本先生の話に納得、素晴らしい。

Q3(4) 研修会全体について

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	30	40.5%
	4点	34	45.9%
	3点	9	12.2%
	2点	1	1.4%
	1点	0	0.0%
合計		74	



○意見・感想等

1	目の前の不登校の子どもにどう関わっていったらよいか考えながら聞かせていただきました。参考になりました。
2	日々の中では「支援をする」というより「関わる」ことを心がけている毎日です。結果を求めすぎず、焦らず、関わっていきたいと思いました。
3	様々な立場からお話が聞けてとても勉強になりました。当事者の方が目の前に来てくれたことに感謝しながら、焦らず、寄り添っていきたいと思います。
4	本日は本当に来て良かったです。石川先生の最後のまとめにじっときました。
5	自分も3人の子どもを持つ親であり、教職にも関わって何となく感じていた「子育ての中での子どもの自立を促すこと」学校の中で、一人一人の子どもたちに「クラスにあなたがいることの必要性を作ること」の大切さを改めて感じました。今の子どものスケジュールは全て学校、親、塾で決まっています。本人たちがやりたいことをやりたい時に自分で選んでやるという機会が私の子ども時代に比べてとても減っていることが、いじめや不登校につながっていると思います。自己決定力も乏しいと思います。また失敗(自分で選んで行動しての)が少なく、自分の行動としての結果、失敗体験が子どもを大きく成長させることを理解している保護者の方も少ないと感じています。昔に比べ生き生きと活動している笑顔が輝いている子どもたちが減っているのが残念です。
6	現在関わっている子どもたちを頭に置きながら話を聞いていると「この子の行動の意味」について、自分の中にストンと落ちた感じがありました。今後に向けてとても参考になりました。
7	考え方が変わって来たように思います。これを行動にできるようにしたいと思います。
8	支援＝相手を快方に向かわせると考えていたが、支援＝寄り添うと感じた。
9	初めての参加でしたが、大変学ぶことができました。
10	子どもを支える幅広い方々に研修会をして欲しい。支援学級や学童(放課後デイ)はとても大切な時期に子どもたちに関わっているの、皆で共有し、支えていける環境になるとよいと感じました。
11	自分の子どもも登校しぶりがあり、自分の子どもに対しての声かけや関わり方にも反省しつつ、とても参考になる話ばかりでした。
12	私たちの視点からでなく、もしかしたら、とても「人」として大切なものを守っているのかもしれない。ルールを決めないで本人を大切にすることから始めて、輪を大きくしたいと思いました。
13	具体的な事例や実践していらっしゃるお話がとても理解しやすく、参考になるものが多かった。
14	世の中が大変な中で聞いて頂きありがとうございました。
15	発達障害をもった子に親が社会が型にはめようとしていることから不登校、ひきこもりは起きる。自主性、自立性を大事にして小さいうちからの社会体験、自然体験の大切さを感じました。

Q4 次回の研修会テーマについての意見・要望

○意見・要望等

1	支援者同士がつながる機会があるといい。
2	担任や親が決めてしまった進路に戸惑う子や状況の改善について、健康(心と身体の)について、「支援について」安心・安全について。夜間中学も良いが(不登校やその学年の学習が修了しない場合は)小・中ともう一度その学年をやり直して次の学年に進むことは世界中の義務教育でも行われています。担任や親が決めた学校に行っているとか、どこかに(高校)に入れなくてはいけないと思われる先生がもしいらっしゃったら是非やめて欲しい。じっくりと背景や本人の気持ち十分寄り添ってから本人が決めて欲しい。本人が行く高校なのだからきちんと向き合って欲しい。
3	不登校、ひきこもりとネット環境、SNS等の利用状況、またはそれによって引き起こされた犯罪や事件、その対応策。
4	地域住民が受け入れ、支える青少年育成。
5	ひきこもり等自立支援施設、支援団体の活動を知り、関わるために定期的にお話を聞く機会が欲しいと思います。
6	ひきこもりの長期化「8050」問題が社会的課題になっている。ひきこもりの問題を対象者を40歳以上に広げての研修会を検討してもらいたい。
7	発達障害、グレーゾーンの子たちへのアプローチ、支援、そしてその家族へのサポートについて
8	困難事例に対しての支援を数多く聞きたい。
9	アウトリーチが必要だと感じてシステム上許可が下りません。ニーズと現状が合わない中で何ができるのかが知りたいです。
10	ひきこもり以前、気になる行動をする子どもたちとの接し方についても話を聞きたい。
11	東毛地区での開催はとてもありがたいです。ODSは前橋独自の取組なので、できれば、この地域で活動されている実践の話を聞きたいです。
12	発達障害を有する子どもの思春期に生じ易い問題と、進学や就職の支援など、いろいろな立場の方が学ぶことができる研修会があると助かります。
13	多くの人に聞いてもらいたいテーマだと思いました。忙しい中、人と人が向き合う時間も限られますが、自分自身の時間のあり方も見つめ直したいと思いました。
14	連携支援の具体例と、不足の社会資源(当事者を支える仕組み、サービス)を考える研修
15	次回も実践事例を示しながらのお話をお願いしたい。
16	もう少しじっくり基調講演を聴きたかったです。
17	不登校、ひきこもりを克服した事例を知りたい。本人の声を聞きたい。